

令和元年度第1回平塚市地域包括支援センター運営協議会会議録

日 時 令和元年7月18日(木) 10時00分～11時30分

場 所 平塚市役所本館3階303会議室

出席者

○ 委員11名

鈴木委員、伊藤委員、木村委員、小島委員、今村委員、小川委員、石橋委員、中村委員、小林委員、平林委員、三橋委員

※ 欠席2名：上野委員、宮崎委員

○ 事務局8名

津田福祉部長、中村地域包括ケア推進課長、佐藤高齢福祉課高齢者相談支援担当長、笹井介護予防担当長、相原医療・介護連携推進担当長、大関主査、横山主査、奥山主事補

○ オブザーバー2名

地域包括支援センターとよだ 高野管理者、地域包括支援センターまつがおか 田中管理者

開 会

1 委嘱状交付

2 あいさつ

3 議題

<以下、進行は今村会長>

議事に入る前の報告事項

平塚市地域包括支援センター運営協議会規則第5条第2項により、定足数である過半数の委員の出席を得て、成立いたしております。また、この運営協議会は平塚市情報公開条例第31条により公開となっており、会議の傍聴につきましては、平塚市附属機関の会議の公開に関する要綱のとおり、取り扱うことといたします。会議の傍聴者は1名。

議題(1)平成30年度地域包括支援センター活動報告等について

<事務局>

資料1に基づき、地域包括支援センターの概要及び活動報告について、説明を行った。

◎ 意見・質問

<委員>

地域包括支援センターの概要説明のところで、介護予防ケアマネジメント業務の「要支援1・2の方等」とあるが、「等」とは何が含まれるのか。

<事務局>

介護予防・日常生活支援総合事業の事業対象者が含まれている。その事業対象者という方

は、基本チェックリストという、その方の虚弱度を測るチェックリストに該当した方となる。

<委員>

地域包括支援センターというのはどのように増設したのか。

<事務局>

平成28年度から29年度にかけて増設している。所管しているエリアの中で高齢者人口が多いエリアを分割した形で増設した。例えば、地域包括支援センターあさひきた、あさひみなみというのがあるが、以前は地域包括支援センターあさひという一つの地域包括支援センターだったが、高齢者人口が多いため、あさひきた、あさひみなみというように2つに分けた。

国からも地域包括支援センターの整備については、中学校区に1つ程度と示されているため、平塚市もそれに沿った形で整備している。

議題（2）令和元年度地域包括支援センター事業計画について

<事務局>

資料2に基づき、昨年度からの報告様式の変更説明及び各地域包括支援センターの事業計画の説明を行い、その中の「取組重点項目」の一つである「外出の促進」について、計画の事例を紹介した。

<地域包括支援センターまつがおか>

独居高齢者の食事会を以前からやっているが、その中で近況を聞いたり、地域包括支援センターのチラシをお配りしたりしている。その都度、「地域包括支援センターの職員が地域に出て、お宅を訪問させていただきます」とお伝えしている。

現在は、民生委員や福祉村から、最近お見掛けしない方などの情報をいただいて、独居高齢者の把握をすることもある。最近かかわった事例では、パートナーを亡くされた方で、民生委員もしばらく見かけないという方のお宅を訪問させていただいたり、訪問したことで包括支援センターのサロンや福祉村につながったりしたケースがあった。

地域包括支援センターまつがおかでは、マージャンサロンや手芸のサロンも、直営という強みを活かして開催していたり、地域のサロンをご紹介したりする活動をしている。

◎ 意見・質問

<委員>

計画の中で、地域包括支援センターの職員と民生委員が協力して独居高齢者の調査などをやっているところがあるが、地域包括支援センター職員と民生委員では見る視点が違うので、絶えず話し合いを続けて、協力して行うのはとてもよいと思う。

<委員>

地域包括支援センターの閉じこもり（防止）支援など、民生委員と良い関係を構築して協力したり、看護学生との交流があったりというのはとても良いと思う。早い段階からの介護予防に取り組んでいただいている、他市に比べても頑張っておられると思う。ただ、包括支援センターの職員の方々には、直接的な支援に回っていただきたいところ、職員の方の業務が多忙すぎるのではと感じる。国もICT化を進めているが、事務処理や現場での対応が1つ

のシステムの中でできるようなものがあれば、楽になるのではと考える。

職員の方にお聞きしたいのは、事務処理や記録に追われていると思うが、その事務に費やす時間というのはどのくらいなのか。

<地域包括支援センターとよだ>

平塚市の方でも、報告などの書類作成は最低限に抑えていただいていると思っている。記録などは確かに多く、大変だが、記録を書くスキルなども上げていかななくてはと思っている。

<事務局>

平塚市としても、包括支援センター職員の方の負担を出来るだけ軽くしたいと考えており、市で把握している地域資源の情報などを包括支援センターと共有するなどして、包括支援センター職員が情報収集する手間を軽減している。システムについても、すでに入っているもので、それを活用し、包括支援センター職員の業務が増えないように対応している。

<委員>

認知症サポーターの養成、育成講座とあるが、受講した上級サポーターの活躍事例などがあれば教えてほしい。また、年齢構成なども分かれば教えてほしい。

もう一点は、認知症カフェについて、地域の方々がどの程度活用しているのかも教えてほしい。

<地域包括支援センターまつがおか>

上級者講座を受けた方々には、認知症カフェなどを開催する際の準備から携わってもらい、開催中は認知症の方々に寄り添っていただき、運営側としても支援してもらっている。

<事務局>

認知症カフェについて、地域の方々がどの程度活用しているかにつきましては資料がございませんが、サポーターの年齢構成ですと、小中学校生が全体の55%、企業などにお勤めの方、施設職員等のいわゆる就労している方が20%、サロンや老人会等の方が5%、その他が20%となっている。

<委員>

高齢者人口も増え、包括支援センターの業務が多岐にわたっているが、職員の定数や給料は上がっているのか。

<事務局>

職員の定数はエリアによって違ってくる。一番少ない地区で4人、一番多い地区で8人となっている。給料体系については、平塚市としては、あくまでも人件費を目安として定額の委託料をお支払しており、その他の部分については、運営法人の考え方になってしまうため、詳しいことは把握していない。

<委員>

民生委員と協力して、お散歩サロンなどを計画しているようだが、その後の展開はどう考えているのか。

<事務局>

10月から開催を予定しており、まだ計画段階ではあるが、お散歩サロンなどで外出が促進できた場合には、現在の介護予防サロンを受け皿として考えている。すでに既存のサロンが多く立ち

上がっている地区でもあるので、一度きっかけが出来れば、そうした地域のサロンなどへ参加しやすくなるのではと考えている。

<委員>

認知症の関係などで、虐待をしてしまった方（家族）のレスパイトなど、受け入れ施設はあるのか。

<事務局>

虐待が発覚し、虐待者と非虐待者を離さなければならない状況の場合は、必ず施設を探している。

<委員>

高齢者虐待の場合、特に息子や娘から虐待されている場合は、親は子どもをかばってしまうため、見極めは難しい。（虐待の）数としては、出ている数字より多いのではないか。

<事務局>

虐待数として報告されている数字よりは多いのではと考える。身体にあざなどがあれば、必ず包括支援センター職員と市職員で訪問している。

<委員>

身体的なものは見つけやすいが、精神的な虐待は見つけにくいと感じる。家庭訪問した際に、精神的に虐待されているなど感じることもあるが、本人は絶対に言わない。そうした時どうすればいいかと思う。

<事務局>

そういったケースを地域で発見した（疑いがある）場合は、包括支援センターや市に相談してほしい。

<委員>

（報告の中で）看護学生の実習を受け入れている包括支援センターがあったが、地域のサロン等で学生が実習でやる内容というのは、今の時期だと熱中症や冬であればインフルエンザの対策などになるが、高齢者の方々の前で健康教育の講師としてやらせていただくのは、将来保健師になりたい学生などにとって、とてもよい教育の場だと考える。若い人材を育てる意味でも、実習はぜひお願いしたい。

<委員>

別の事例ですが、学生の中には、多くの方の前でプレゼンする練習をしていて、例えば学校の文化祭で、自分たちで介護機器を練習し、操作して実際に介護が必要な方に体験していただいたこともある。そうした新しい医療機器などの使い方を学んでいる学生もいる。

4 その他

<事務局>

昨年度から始まった国が実施する地域包括支援センターの運営状況調査を今年度も実施する。こちらは国が全国統一で示した評価指標をもとにした調査であり、すでに地域包括支援センターからいただいた回答を国へ提出しており、全国分をとりまとめの上、全国の状況について情報提供いただける予定となっている。国のとりまとめの時期は未定だが、この調査

結果が届き次第、今後の運営協議会にてご報告できればと考えている。

<事務局>

机の上に置かせていただいている安心カードとチラシにつきましては、本日平林委員からご厚意でお持ちいただいた。こちらの安心カードは、前回の運営協議会で好事例として取り上げさせていただいたあさひみなみ地区のもので、地域に全戸配布したもの。同じような取り組みが他の地区でも広がっている。

<事務局>

次回開催予定は11月21日（木）を予定している。

閉会

以 上